

証券コード 5204  
2021年5月28日

株 主 各 位

## 第86回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

### 連結計算書類の連結注記表 計算書類の個別注記表

第86期（2020年3月21日から2021年3月20日まで）

連結計算書類の注記及び計算書類の注記につきましては、法令及び当社定款第17条の規定に基づき、当社ウェブサイトに掲載することにより株主の皆様を提供しております。

石 塚 硝 子 株 式 会 社

# 連結計算書類の連結注記表

## 【連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等】

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社の数 15社

##### 連結子会社の名称

アデリア(株)、石塚物流サービス(株)、ウイストン(株)、石硝運輸(株)、日本パリソン(株)、久金属工業(株)、北洋硝子(株)、鳴海製陶(株)、三重ナルミ(株)、PT. NARUMI INDONESIA、NARUMI SINGAPORE PTE LTD.、鳴海（上海）商貿有限公司、PT. NARUMI GLOBAL SUPPLY INDONESIA、大阪アデリア(株)、石塚王子ペーパーパッケージング(株)

当連結会計年度より重要性が増した大阪アデリア(株)を連結の範囲に含めております。また、石塚王子ペーパーパッケージング(株)に会社分割による事業承継をしたため、同社を連結の範囲に含めております。

#### (2) 非連結子会社の数 5社

##### 非連結子会社の名称

石塚マシンテクノ(株)、ISHIZUKA GLASS (UK) LTD.、NARUMI TABLEWARE USA, INC.、ISHIZUKA GLASS (EUROPE) GmbH、石塚硝子分割準備(株)

##### 連結の範囲から除いた理由

非連結子会社5社は、いずれも小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等のそれぞれの合計額は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除いております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の数 なし

#### (2) 持分法を適用しない非連結子会社の数 5社

##### 持分法を適用しない非連結子会社の名称

石塚マシンテクノ(株)、ISHIZUKA GLASS (UK) LTD.、NARUMI TABLEWARE USA, INC.、ISHIZUKA GLASS (EUROPE) GmbH、石塚硝子分割準備(株)

##### 持分法を適用していない理由

持分法を適用していない非連結子会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等のそれぞれの合計額が連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため、持分法の適用から除いております。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、久金属工業(株)、北洋硝子(株)、鳴海製陶(株)、三重ナルミ(株)、PT. NARUMI INDONESIA、NARUMI SINGAPORE PTE LTD.、鳴海（上海）商貿有限公司及びPT. NARUMI GLOBAL SUPPLY INDONESIAの決算日は12月31日であります。また、大阪アデリア(株)の決算日は1月31日であります。連結計算書類の作成に当たっては、当該連結子会社の事業年度に係る計算書類を使用してあります。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### ①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

###### ②デリバティブ

時価法

###### ③たな卸資産

商品・製品・原材料・仕掛品

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

貯蔵品

受払記録のあるもの

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

その他のもの

主として最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### ①有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び連結子会社15社のうち10社が主に定額法、6社が主に定率法であります。

ただし、国内会社は、1998年4月1日以降に取得した建物並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 2年～60年

機械装置及び運搬具 2年～15年

###### ②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

###### ③リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が2009年3月20日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 繰延資産の処理方法

社債発行費

社債の償還までの期間にわたり定額法により償却しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額のうち、当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

③役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金支払に備えるため、連結子会社の一部は役員退職慰労金の内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

④汚染負荷量引当金

当社が吸収合併した旧㈱アサヒビールパックスが過去に有していた吹田及び関東工場に係る汚染負荷量賦課金の支払に備えるため、将来にわたって発生する汚染負荷量賦課金総額の現在価値を汚染負荷量引当金として計上しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(6) 退職給付に係る会計処理の方法

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10～15年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

原則として、繰延ヘッジ処理によって行うこととしております。なお、為替予約及び通貨オプションについては、振当処理の要件を満たしているものは振当処理を、特例処理の要件を満たし

ている金利スワップについては、特例処理によっております。

(8) 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

【追加情報に関する注記】

新型コロナウイルス感染症拡大による影響については、今後の収束時期等を正確に予測することは困難な状況にあります。当社グループでは、翌連結会計年度末に向けて経営環境は一定の回復に向かうものと想定して会計上の見積もりに関する会計処理を行っております。

なお、同感染症拡大による影響は不確定要素が多く、収束までの期間が長期化した場合には当社グループの財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

【連結貸借対照表に関する注記】

1. 担保に供している資産及び担保資産に対応する債務

担保に供している資産

|           |          |
|-----------|----------|
| 建物及び構築物   | 2,965百万円 |
| 機械装置及び運搬具 | 1,993    |
| 工具器具及び備品  | 493      |
| 土地        | 10,160   |
| 計         | 15,611   |

担保資産に対応する債務

|                    |        |
|--------------------|--------|
| 短期借入金              | 300百万円 |
| 長期借入金（1年内返済予定額を含む） | 26     |
| 未払金                | 265    |
| 長期未払金              | 1,855  |
| 計                  | 2,447  |

2. 有形固定資産の減価償却累計額 70,625百万円

3. 債権流動化に伴う買戻上限額 719百万円

4. 土地の再評価

当社及び鳴海製陶(株)は「土地の再評価に関する法律」（平成10年3月31日公布法律第34号）及び平成13年3月31日の同法律の改正に基づき、事業用土地の再評価を行っております。なお、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

(1) 再評価の方法

・当社

「土地の再評価に関する法律施行令」（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出しております。

・鳴海製陶(株)

同条第4号に定める地価税法（平成3年法律第69号）第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法より算定した価額に合理的な調整を行って算出しております。

(2) 再評価を行った日

|        |            |
|--------|------------|
| ・当社    | 2002年3月20日 |
| ・鳴海製陶㈱ | 2002年3月31日 |

(3) 再評価を行った土地の当連結会計年度末における時価と再評価後の帳簿価額との差額

△2,045百万円

【連結損益計算書に関する注記】

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

| 用途                     | 場所     | 種類         | 金額（百万円） |
|------------------------|--------|------------|---------|
| ガラスびん事業用資産<br>（処分予定資産） | 兵庫県姫路市 | 機械装置及び運搬具等 | 3,648   |

当社グループは事業用資産について、主として事業単位でグルーピングを行っております。また、処分が決定された資産については個々の資産ごとに減損の可否を判定しています。

【重要な後発事象に関する注記】に記載のとおり、ガラスびん事業（以下「本事業」）の生産拠点である姫路工場の生産停止を含む、本事業の生産体制再編の決議に伴い処分予定となる姫路工場の機械装置及び運搬具等の固定資産について、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。また、その内訳は建物及び構築物636百万円、機械装置及び運搬具2,710百万円、その他302百万円であります。回収可能価額は正味売却価額により測定しております。

【連結株主資本等変動計算書に関する注記】

1. 発行済株式の種類及び総数

| 発行済株式の種類 | 当連結会計年度期首株式数 | 当連結会計年度末株式数 |
|----------|--------------|-------------|
| 普通株式     | 4,219,554株   | 4,219,554株  |

2. 自己株式の種類及び数

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末株式数 |
|-------|--------------|--------------|--------------|-------------|
| 普通株式  | 33,438株      | 96株          | 一株           | 33,534株     |

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は単元未満株式の買取りによるものです。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議                 | 株式の種類 | 配当金の総額<br>（百万円） | 1株当たり<br>配当額（円） | 基準日        | 効力発生日      |
|--------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|
| 2020年5月11日<br>取締役会 | 普通株式  | 200             | 48              | 2020年3月20日 | 2020年6月17日 |



- (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの該当事項はありません。

## 【金融商品に関する注記】

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取り組み方針

当社グループ（当社及び連結子会社）は、資金運用については短期的な預金等の安全性の高い金融資産に限定し、資金調達については銀行借入及び社債発行等による方針であります。デリバティブは、将来の原材料購入価格・為替・金利の変動によるリスクのヘッジを目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理業務として、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握する体制を敷いております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、経理担当部門が定期的に時価を把握しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが120日以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、先物為替予約を利用してヘッジしております。

変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち長期のものの一部については、金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引（金利スワップ取引）をヘッジ手段として利用しております。

ヘッジ会計の方法については「連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等」の「4. (7)」をご参照ください。

また、取引に係るリスク管理体制につきましては、当社においては、デリバティブ取引に係る契約締結業務は、財務部経理グループが担当しており、当社稟議規程により、役員合議の後、社長決裁を受けております。連結子会社においては、取締役会決議を経て経理担当部署が管理しており、契約締結業務は当社の財務部経理グループに連絡した上で行っております。

営業債務や借入金、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各社が適時に資金繰り計画を作成する等の方法により管理しております。

### 2. 金融商品の時価等に関する事項

2021年3月20日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（(注) 2. を参照）。

(単位：百万円)

|                            | 連結貸借対照表計上額(※1) | 時価(※1)  | 差額  |
|----------------------------|----------------|---------|-----|
| (1) 現金及び預金                 | 2,402          | 2,402   | —   |
| (2) 受取手形及び売掛金              | 13,621         | 13,621  | —   |
| (3) 有価証券及び投資有価証券<br>其他有価証券 | 7,491          | 7,491   | —   |
| (4) 支払手形及び買掛金              | (8,259)        | (8,259) | —   |
| (5) 短期借入金                  | (6,923)        | (6,932) | 9   |
| (6) 1年内償還予定の社債             | (885)          | (913)   | 27  |
| (7) 未払金                    | (1,834)        | (1,843) | 8   |
| (8) 未払法人税等                 | (356)          | (356)   | —   |
| (9) 社債                     | (9,265)        | (9,268) | 3   |
| (10) 長期借入金                 | (3,388)        | (3,365) | △23 |
| (11) リース債務(※2)             | (5,624)        | (5,587) | △37 |
| (12) 長期未払金                 | (2,255)        | (2,217) | △37 |
| (13) デリバティブ取引              | 27             | 27      | —   |

(※1) 負債に計上されているものについては、( ) で示しております。

(※2) 利息相当額を控除しない方法によっているリース債務5百万円は含めておりません。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

有価証券及び投資有価証券の時価について、譲渡性預金は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっており、株式等は主に取引所の価格によっております。

(4) 支払手形及び買掛金、(7) 未払金、(8) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。なお、一部の未払金については、元利金の合計額を同様の新規借入等を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(5) 短期借入金、(6) 1年内償還予定の社債、(9) 社債、(10) 長期借入金、(12) 長期未払金

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入等を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による一部の長期借入金は金利スワップの特例処理の対象としており、その時価については当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られた利率で割り引いて算定する方法によっております。なお、短期借入金には、1年内に返済される予定の長期借入金を含めております。



(11) リース債務

リース債務の時価については、元利金の合計額を同様の新規リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。なお、リース債務には、1年以内に返済される予定のリース債務を含めております。

(13) デリバティブ取引

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。なお、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注) 2. 投資有価証券のうち、非上場株式630百万円は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため「(3) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

【賃貸等不動産に関する注記】

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社グループは、茨城県、愛知県及びその他の地域において、賃貸用の工業施設等を有しております。

2. 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位：百万円)

| 連結貸借対照表計上額 | 時価    |
|------------|-------|
| 3,741      | 4,581 |

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当期末の時価は、主として固定資産税評価額等の指標を用いて合理的に算定したものであります。

【退職給付に関する注記】

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、主として確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、当社は従業員の退職に際して割増退職金を支払う場合があります。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

|              |          |
|--------------|----------|
| 退職給付債務の期首残高  | 8,902百万円 |
| 勤務費用         | 505      |
| 利息費用         | 30       |
| 数理計算上の差異の発生額 | △46      |
| 退職給付の支払額     | △424     |
| 為替換算差額       | 0        |
| 退職給付債務の期末残高  | 8,968    |

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

|             |          |
|-------------|----------|
| 年金資産の期首残高   | 3,366百万円 |
| 期待運用収益      | 72       |
| 数理計算上の差異発生額 | 56       |
| 事業主からの拠出額   | 193      |
| 退職給付の支払額    | △225     |
| 為替換算差額      | △0       |
| 年金資産の期末残高   | 3,462    |

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

|                       |          |
|-----------------------|----------|
| 積立型制度の退職給付債務          | 8,431百万円 |
| 年金資産                  | △3,462   |
|                       | 4,968    |
| 非積立型制度の退職給付           | 536      |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 5,505    |
| 退職給付に係る負債             | 5,505    |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 5,505    |

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 勤務費用            | 505百万円 |
| 利息費用            | 30     |
| 期待運用収益          | △72    |
| 数理計算上の差異の費用処理額  | 95     |
| 過去勤務費用の費用処理額    | △17    |
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 542    |

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

|          |        |
|----------|--------|
| 数理計算上の差異 | 197百万円 |
| 過去勤務費用   | △17    |

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

|             |         |
|-------------|---------|
| 未認識数理計算上の差異 | △390百万円 |
| 過去勤務費用      | 154     |

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

|           |            |
|-----------|------------|
| 割引率       | △0.1%～0.7% |
| 長期期待運用収益率 | 2.0%       |

### 3. 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出の要拠出額は、13百万円であります。

#### 【1株当たり情報に関する注記】

|            |           |
|------------|-----------|
| 1株当たり純資産額  | 5,510円68銭 |
| 1株当たり当期純損失 | △722円17銭  |

#### 【重要な後発事象に関する注記】

(ガラスびん生産体制再編)

当社は、2021年5月6日開催の取締役会において、ガラスびん事業（以下「本事業」）の生産拠点である姫路工場の生産停止を含む、本事業の生産体制再編を決議いたしました。

#### 1. 本事業の生産体制再編の内容

国内のガラスびん市場は、消費者ニーズの変化や他素材容器への置換などにより縮小傾向にあります。加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う飲食店の時短営業などの影響により厳しい市場環境が続いております。このような環境の中、本事業に対して様々な経営合理化策を講じてまいりましたが、本事業は3期連続の営業赤字となりました。

この状況下において、定期更新を近々迎える姫路工場の溶解炉について新たな更新投資は難しいと判断し、岩倉・姫路の2工場体制から岩倉1工場体制への再編を決議いたしました。生産体制再編後の供給につきましては、岩倉工場での生産並びに他社への生産委託等も含めて対応を進めてまいります。なお、姫路工場でのガラスびんの生産停止時期は2022年12月末を予定しております。

また、生産停止後の姫路工場については、遠東石塚グリーンペット(株)（台湾の遠東新世紀グループと当社が共同出資）がリサイクルPET工場を同工場の敷地内に建設する予定です。さらに、同工場に当社子会社である日本パリソン(株)の工場建設も検討しており、PETボトルに期待される資源循環型の取り組みを推し進めてまいります。

#### 2. 姫路工場の概要

|                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 名称               | 石塚硝子株式会社 姫路工場        |
| 所在地              | 兵庫県姫路市飾磨区今在家1351番地の1 |
| 敷地面積             | 128,510㎡             |
| 事業内容             | 各種ガラスびん及び王冠の製造       |
| 従業員数（2021年3月20日） | 正社員：150名、臨時従業員：47名   |

当該工場の従業員につきましては、当社グループ内での配置転換などにより現雇用契約を継続します。

### 3. 今後の日程

姫路工場の生産停止時期につきましては2022年12月を予定しております。

また、遠東石塚グリーンペット(株)が同工場に建設予定のリサイクルPET工場の稼働時期は2023年4月の予定です。

### 4. 業績に及ぼす影響

本件に伴う損失につきましては、当連結会計年度に特別損失の減損損失として3,648百万円を計上しております。

#### (固定資産の売却)

当社は、2021年3月31日開催の取締役会において、当社の連結子会社が保有する固定資産の譲渡を決議し、同日付で売買契約を締結いたしました。

#### 1. 譲渡の理由

経営資源の有効活用による資産の効率化及び財務体質の強化を図るため、以下の資産を譲渡することを決議いたしました。

#### 2. 譲渡資産の概要

| 所在地               | 資産の内容        | 現況   |
|-------------------|--------------|------|
| 東京都中央区東日本橋2-50-10 | 土地 288.15㎡   | 営業拠点 |
| 東京都中央区東日本橋2-50-11 | 建物 2,102.29㎡ |      |

#### 3. 譲渡先の概要

譲渡先については、譲渡先の意向により公表を差し控えさせていただきます。なお、譲渡先と当社及び当社グループとの間には、特筆すべき資本関係、人的関係及び取引関係はなく、関連当事者にも該当いたしません。また、譲渡先は反社会的勢力と一切関係がないことを確認しております。

#### 4. 譲渡の日程

|         |            |
|---------|------------|
| 取締役会決議日 | 2021年3月31日 |
| 売買契約締結日 | 2021年3月31日 |
| 物件引渡予定日 | 2021年5月31日 |
| 移転完了予定日 | 2021年12月   |

移転が完了するまでは、引渡後に譲渡先と一定期間の賃貸借契約（リースバック取引）を締結します。

#### 5. 損益に与える影響

当該固定資産の売却により、翌連結会計年度において固定資産売却益785百万円（概算）を計上する予定です。

# 計算書類の個別注記表

## 【重要な会計方針に係る事項に関する注記】

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券

|               |                                                           |
|---------------|-----------------------------------------------------------|
| 子会社株式及び関連会社株式 | 移動平均法による原価法                                               |
| その他有価証券       |                                                           |
| 時価のあるもの       | 決算日の市場価格等に基づく時価法<br>(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) |
| 時価のないもの       | 移動平均法による原価法                                               |

#### (2) デリバティブ

時価法

#### (3) たな卸資産

|               |                                               |
|---------------|-----------------------------------------------|
| 商品・製品・原材料・仕掛品 | 総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）    |
| 貯蔵品           |                                               |
| 受払記録のあるもの     | 総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）    |
| その他のもの        | 最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法） |

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

|                         |                                                                                                                                 |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 岩倉工場・東京工場・<br>姫路工場・福崎工場 | 定額法                                                                                                                             |
| 上記以外                    | 定率法<br>ただし、1998年4月1日以降に取得した建物並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。<br>建物 3年～47年<br>機械装置 2年～9年 |

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法  
ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

#### (3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

## 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が2009年3月20日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

### 3. 繰延資産の処理方法

#### 社債発行費

社債の償還までの期間にわたり定額法により償却しております。

### 4. 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算差額

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益としております。

### 5. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額のうち、当期に負担すべき額を計上しております。

#### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。

#### (4) 汚染負荷量引当金

当社が吸収合併した旧㈱アサヒビールパックスが過去に有していた吹田及び関東工場に係る汚染負荷量賦課金の支払に備えるため、将来にわたって発生する汚染負荷量賦課金総額の現在価値を汚染負荷量引当金として計上しております。

### 6. 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。



## 7. ヘッジ会計の方法

原則として、繰延ヘッジ処理によって行うこととしております。なお、為替予約及び通貨オプションについては、振当処理の要件を満たしているものは振当処理を、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理によっております。

## 8. 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

### 【追加情報に関する注記】

新型コロナウイルス感染症拡大による影響については、今後の収束時期等を正確に予測することは困難な状況にありますが、翌事業年度末に向けて経営環境は一定の回復に向かうものと想定して会計上の見積もりに関する会計処理を行っております。

なお、同感染症拡大による影響は不確定要素が多く、収束までの期間が長期化した場合には当社の財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### 【貸借対照表に関する注記】

#### 1. 担保に供している資産及び担保資産に対応する債務

##### 担保に供している資産

|          |          |
|----------|----------|
| 建物       | 2,558百万円 |
| 構築物      | 222      |
| 機械装置     | 1,976    |
| 車両運搬具    | 16       |
| 工具器具及び備品 | 493      |
| 土地       | 7,850    |
| 計        | 13,117   |

##### 担保資産に対応する債務

|       |        |
|-------|--------|
| 短期借入金 | 300百万円 |
| 未払金   | 265    |
| 長期未払金 | 1,855  |
| 計     | 2,420  |

#### 2. 有形固定資産の減価償却累計額

40,660百万円

#### 3. 保証債務

他の会社の金融機関からの借入債務等に対し、保証を行っております。

|           |        |
|-----------|--------|
| 大阪アデリア(株) | 159百万円 |
| ウイストン(株)  | 29     |
| 計         | 189    |

#### 4. 債権流動化に伴う債権買戻上限額

719百万円

## 5. 関係会社に対する金銭債権及び債務

|        |          |
|--------|----------|
| 短期金銭債権 | 4,562百万円 |
| 長期金銭債権 | 182      |
| 短期金銭債務 | 11,291   |
| 長期金銭債務 | 0        |

## 6. 土地の再評価

当社は「土地の再評価に関する法律」（平成10年3月31日公布法律第34号）及び平成13年3月31日の同法律の改正に基づき、事業用土地の再評価を行っております。なお、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

### (1) 再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出しております。

(2) 再評価を行った日 2002年3月20日

(3) 再評価を行った土地の当事業年度末における時価と再評価後の帳簿価額との差額  
△2,580百万円

## 【損益計算書に関する注記】

### 1. 減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

| 用途                     | 場所     | 種類    | 金額（百万円） |
|------------------------|--------|-------|---------|
| ガラスびん事業用資産<br>(処分予定資産) | 兵庫県姫路市 | 機械装置等 | 3,648   |

当社は事業用資産について、主として事業単位でグルーピングを行っております。また、処分が決定された資産については個々の資産ごとに減損の可否を判定しています。

【重要な後発事象に関する注記】に記載のとおり、ガラスびん事業（以下「本事業」）の生産拠点である姫路工場の生産停止を含む、本事業の生産体制再編の決議に伴い処分予定となる姫路工場の機械装置等の固定資産について、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。また、その内訳は建物359百万円、構築物276百万円、機械装置2,710百万円、その他302百万円であります。回収可能価額は正味売却価額により測定しております。

### 2. 関係会社との取引高

#### 営業取引による取引高

|     |          |
|-----|----------|
| 売上高 | 2,001百万円 |
| 仕入高 | 29,460   |
| その他 | 4,058    |

#### 営業取引以外の取引による取引高

|       |       |
|-------|-------|
| 営業外収益 | 1,077 |
| 営業外費用 | 31    |

【株主資本等変動計算書に関する注記】

自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類   | 当事業年度期首<br>株式数 | 当事業年度<br>増加株式数 | 当事業年度<br>減少株式数 | 当事業年度末<br>株式数 |
|---------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 普 通 株 式 | 33,438株        | 96株            | 一株             | 33,534株       |

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによるものです。

【税効果会計に関する注記】

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

|                 |          |
|-----------------|----------|
| 退職給付引当金         | 1,224百万円 |
| 減価償却費           | 1,163    |
| 繰越欠損金           | 439      |
| 投資有価証券評価損       | 329      |
| 長期未払金           | 185      |
| 汚染負荷量引当金        | 136      |
| たな卸資産評価損        | 96       |
| 賞与引当金           | 86       |
| 会社分割による子会社株式調整額 | 34       |
| 未払社会保険料         | 28       |
| その他             | 11       |

|          |       |
|----------|-------|
| 繰延税金資産小計 | 3,737 |
|----------|-------|

|        |        |
|--------|--------|
| 評価性引当額 | △2,533 |
|--------|--------|

|          |       |
|----------|-------|
| 繰延税金資産合計 | 1,204 |
|----------|-------|

繰延税金負債

|                 |      |
|-----------------|------|
| その他有価証券評価差額金    | △690 |
| 会社分割による子会社株式調整額 | △39  |
| 資産評価差額金         | △33  |
| 繰延ヘッジ損益         | △7   |

|          |      |
|----------|------|
| 繰延税金負債合計 | △769 |
|----------|------|

|           |     |
|-----------|-----|
| 繰延税金資産の純額 | 434 |
|-----------|-----|

なお、上記のほか再評価に係る繰延税金負債2,614百万円が計上されております。

【リースにより使用する固定資産に関する注記】

貸借対照表に計上した固定資産のほか、ガラス、P E T及び紙容器製品製造設備の一部、事務機器の一部については、リース契約により使用しております。

【関連当事者との取引に関する注記】

子会社及び関連会社等

(単位：百万円)

| 種類  | 会社等の名称                 | 議決権等の<br>所有の割合<br>(%)     | 関連当事者<br>との関係                                                        | 取引の内容                                                                                                                               | 取引金額<br>(注 6)                                      | 科 目                                                       | 期末残高                                               |
|-----|------------------------|---------------------------|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 子会社 | アデリア(株)                | 所有<br>直接 100              | 役員の兼任<br>製品の販売                                                       | 製品の販売<br>(注 1)                                                                                                                      | 1,991                                              | 売掛金                                                       | 891                                                |
| 子会社 | 日本パリソン(株)              | 所有<br>直接 89.75<br>間接 0.25 | 役員の兼任<br>資金の貸付及び<br>借入<br>商品の仕入<br>設備の賃貸<br>設備等の購入の<br>立替<br>資材仕入の立替 | 資金の貸付<br>(注 2)<br>利息の受取<br>(注 2)<br>資金の借入<br>(注 2)<br>利息の支払<br>(注 2)<br>商品の仕入<br>(注 3)<br>賃貸収入<br>(注 4)<br>設備等の購入の<br>立替<br>資材仕入の立替 | 714<br>1<br>1,978<br>13<br>25,079<br>817<br>—<br>— | 関係会社<br>短期貸付金<br>未収収益<br>—<br>—<br>買掛金<br>—<br>未収金<br>未収金 | 1,825<br>0<br>—<br>—<br>7,913<br>—<br>745<br>2,344 |
| 子会社 | 鳴海製陶(株)                | 所有<br>直接 100              | 役員の兼任<br>債務被保証                                                       | 債務被保証<br>(注 5)                                                                                                                      | 945                                                | —                                                         | —                                                  |
| 子会社 | 石塚王子ペーパー<br>パッケージング(株) | 所有<br>直接 60               | 役員の兼任<br>資金の貸付<br>商品の仕入<br>設備の賃貸                                     | 資金の貸付<br>(注 2)<br>利息の受取<br>(注 2)<br>商品の仕入<br>(注 3)<br>賃貸収入<br>(注 4)                                                                 | 900<br>2<br>3,312<br>92                            | 関係会社<br>短期貸付金<br>未収収益<br>買掛金<br>—                         | 900<br>2<br>2,435<br>—                             |

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注 1) 製品の販売については、当社製品の市場価格から算定した価格及び当社における総原価を検討の上、決定しております。

(注 2) 日本パリソン(株)に対する資金の貸付及び借入並びに石塚王子ペーパーパッケージング(株)に対する資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。なお、取引金額については、期中平均残高を記載しております。

(注 3) 日本パリソン(株)及び石塚王子ペーパーパッケージング(株)からの商品の仕入については、当該商品の市場価格から算定した価格及び両社から提示された総原価等を検討の上、決定しております。

(注 4) 日本パリソン(株)及び石塚王子ペーパーパッケージング(株)に賃貸している土地・建物等に対して、近隣の地代及び資産の評価額を勘案して賃貸料を合理的に決定しております。

(注 5) 当社は、金融機関からの借入に対して債務保証を受けております。なお、保証料の支払はありません。

(注 6) 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

【1株当たり情報に関する注記】

|            |           |
|------------|-----------|
| 1株当たり純資産額  | 4,456円40銭 |
| 1株当たり当期純損失 | △829円57銭  |

【重要な後発事象に関する注記】

当社は、2021年5月6日開催の取締役会において、ガラスびん事業（以下「本事業」）の生産拠点である姫路工場の生産停止を含む、本事業の生産体制再編を決議いたしました。

1. 本事業の生産体制再編の内容

国内のガラスびん市場は、消費者ニーズの変化や他素材容器への置換などにより縮小傾向にあります。加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う飲食店の時短営業などの影響により厳しい市場環境が続いております。このような環境の中、本事業に対して様々な経営合理化策を講じてまいりましたが、本事業は3期連続の営業赤字となりました。

この状況下において、定期更新を近々迎える姫路工場の溶解炉について新たな更新投資は難しいと判断し、岩倉・姫路の2工場体制から岩倉1工場体制への再編を決議いたしました。生産体制再編後の供給につきましては、岩倉工場での生産並びに他社への生産委託等も含めて対応を進めてまいります。なお、姫路工場でのガラスびんの生産停止時期は2022年12月末を予定しております。

また、生産停止後の姫路工場については、遠東石塚グリーンペット(株)（台湾の遠東新世紀グループと当社が共同出資）がリサイクルPET工場を同工場の敷地内に建設する予定です。さらに、同工場に当社子会社である日本パリソン(株)の工場建設も検討しており、PETボトルに期待される資源循環型の取り組みを推し進めてまいります。

2. 姫路工場の概要

|                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 名称               | 石塚硝子株式会社 姫路工場        |
| 所在地              | 兵庫県姫路市飾磨区今在家1351番地の1 |
| 敷地面積             | 128,510㎡             |
| 事業内容             | 各種ガラスびん及び王冠の製造       |
| 従業員数（2021年3月20日） | 正社員：150名、臨時従業員：47名   |

当該工場の従業員につきましては、当社グループ内での配置転換などにより現雇用契約を継続します。

3. 今後の日程

姫路工場の生産停止時期につきましては2022年12月を予定しております。

また、遠東石塚グリーンペット(株)が同工場に建設予定のリサイクルPET工場の稼働時期は2023年4月の予定です。

4. 業績に及ぼす影響

本件に伴う損失につきましては、当事業年度に特別損失の減損損失として3,648百万円を計上しております。